

## 心をつなぐかかわりで 新年のスタートを

### 1 冬休みと始業日からのかかわり

欠席が続いたり、休み方が気になる子どもについては、冬休みと始業日からの取り組みを再チェックしましょう。キーワードは、「心をつなぐかかわり」です。岡田弘先生は、**学校には特別な日がある**と言っています。「始業日から3日間」、「連続して休んだ子が来た日」です。ですから、1月8日（火）は大きなチャンス日となります。

冬休み中から始業日にかけて

一人ひとりの「Q - Uアンケート」用紙に目を通し、手立ての必要な苦戦している子どもへの対応を行う

**1月8日(火)までに 家庭訪問を**

特に、前日の1月7日(月)がチャンス

**年賀状や電話を**

保護者と1月8日(火)の迎え方を話し合っておく

始業の日だけ登校する子どもがいます

子どもによっては、別室登校や放課後登校など柔軟な対応を

**始業の日が最大のチャンス**

**エンカウンター等で、楽しく**

**登校できた時は、登校した時の気持ちを聴き、状況に応じた登校の仕方等を話し合います**

### 2 不登校を防ぐために

文部科学省の統計では、年間30日以上欠席した子どもを長期欠席児童生徒としています。

高知市の状況を欠席日数別に見ますと、毎年最も多くなっているのが、週1～2日程度休む年間30～50日欠席する子どもたちです。週1日、月に3～4日程度欠席する子どもは、連続して欠席しないので、気づきにくく対応が遅れがちになる傾向があります。しかし、小学校の6年間、この状態が続きますと180日以上欠席となり、日数的には1学年の学校生活がまるまる抜け落ちてしまうことになります。“対人関係や勉強”を学ぶ機会が大きく失われていきます。そして、学校を回避する感情が生じてくるわけです。また、の中には、病気や入院、事故、家庭の事情等で欠席する子どもたちがいますが、「週1不登校」と呼ばれる不登校予備軍の子どもたちも多く含まれています。欠席の理由は、体調不良・発熱・腹痛・頭痛等です。

**高知市でも、30～50日欠席をした児童生徒に注目してみました。すると、約半数の子どもたちが次の年度も30日を超え、多くの子どもたちの欠席日数が増加していることが分かりました。本格的に休み始めるのです。だから、30日ラインは不登校を生じさせない大きなめやすとなります。学級にそのような子どもがいないか再度確認してください。**

高知市では、「不登校を防ぐ、予防の観点」から毎日の欠席に敏感になり、早期に対応する取り組みを進めています。したがって、欠席時の家庭訪問や連絡、保護者との面談はもちろんのことですが、学校に来ている時、「学校に来たくなる気持ちにさせる対応」が大切になります。